特集1

アトツギ・ルネサンス

事業承継問題が深刻化する中、次世代を担う後継者に求められる資質とは何か――。既存の経営資源を用い、売り上げを伸ばしている後継ぎを取材し、現代に即した事業承継の形を浮き彫りにする。

取材・文 上阪 徹

Case1 ►►►P18 竹下製菓株式会社 代表取締役社長 竹下真由
Case2 ►►►P22 株式会社三五工務店 代表取締役 田中裕基
Case3 ►►►P24 株式会社新家製作所 代表取締役 山下公彦
Interview ►►P26 一般社団法人ベンチャー型事業承継 代表理事 山野千枝

うえさか・とおる
ブックライター。1966年兵庫県生まれ。89年早稲田大学商学部卒業。ワールド、リクルート・グループなどを経て、94年フリーランスに。近著に『突き抜けろ　三木谷浩史と楽天、25年の軌跡』(幻冬舎)、『熱くなれ　稲盛和夫　魂の瞬間』(講談社)など。

Case1 竹下製菓株式会社（たけしたせいか）

【会社概要】▷設立 1927年 ▷事業内容 冷菓・菓子製造販売 ▷従業員数 80名 ▷本社 佐賀県小城市

主力を広げ新商品を生む 5代目の多角化戦略

代表取締役社長 竹下真由（たけしたまゆ）

撮影 編集部

コロナ禍で「いよいよ関東進出！」とSNSを皮切りに大きな反響を巻き起こした九州のソウルフードアイス『ブラックモンブラン』。先導したのは、同社の五代目・竹下真由さんだ。竹下さんが語る後継者に必要な「新しいものを生み出す力」。

子どもの頃から家業を継ぎたかった

理系の最難関大学の一つ、東京工業大学大学院を修了。世界最大級のコンサルティングファーム・アクセンチュアで四年働いた後、家業に戻ったのが、竹下製菓の五代目社長、竹下真由さんだ。新たな生産拠点づくりや多角化経営を進め、佐賀の女性経営者の代表格となっている。

会社の設立は一九二七（昭和2）年。六九年に祖父が開発したアイス『ブラックモンブラン』が九州で爆発的にヒット。超ロングセラー商品になり、今も年二〇〇〇万本以上を製造、「九州のソウルフード」として知られている。他にも冷菓、菓子製造、さらにホテル事業も展開。一人娘だった竹下さんは、家業を継ぎたいと子どもの頃から考えていたという。

「アイスはとてもおいしいし、みんなをハッピーにできる仕事。幼い頃から工場にも出入りしていましたし、自然とそう思っていました」

ただ、親から継いでくれ、と言われたことは一度もなかった。

「周りの人からは、いずれはお婿さんを取って社長になってもらわないといけない、みたいに言われたこともあって。むしろ、本当に継がせてもらえるのか、と心配でした」